

「かぜ」症状にご用心

12月に入り寒さが厳しくなってくるにつれて、咳や熱といった症状で外来を受診される患者様も多くなってきました。しかし咳・鼻水・のどの痛みなどのいわゆる「かぜ」症状や発熱が見られる場合でもかぜ症候群だけでなく、そのほかの病気の可能性も十分に考えられます。

* 「かぜ」症状と似た症状の病気について

かぜ症状を伴うかぜ症候群以外の代表的な病気について簡単にあげてみました。

- 細菌性肺炎： 発熱・咳・痰を症状とし、時々胸痛や呼吸困難がみられます。
- インフルエンザ： 咳などの呼吸器症状よりも発熱・全身倦怠感・筋肉痛・関節痛などの全身症状がみられます。
- 肺結核： 微熱・咳が長く続き、血痰が認められる場合もあります。
- 心不全： 労作時に息切れがみとめられ、むくみがある場合もあります。
- 肺がん： 喫煙者でなかなか咳がなおらない場合に可能性があります。
- 気管支喘息： 吸気性の呼吸困難や咳がみられます。
- 間質性肺炎： 痰を伴わない咳がみられます。
- 胸膜炎： 痰を伴わない咳・胸痛・発熱がみられます。
- アレルギー性鼻炎： 季節性で、透明な鼻水・眼のかゆみなどを伴います。
- 伝染性単核球症： 発熱・咽頭炎・扁桃炎・リンパ節腫脹などで発症します。
- 急性肝炎： 発熱・頭痛・咽頭痛で発症することがあります。

また上記以外にも同じような症状を呈する病気が数多くあります。

「かぜをひいたな」と思った時でも、いつもと症状が違う場合や症状が悪化する場合にはかぜ以外の病気の可能性も十分考えられます。また特に高齢者の場合では病気が重篤になりやすいので、たかが「かぜ」と思わずに早めに医療機関を受診するようにしましょう。

(文責:土居)

【播磨病院内科疾患情報のバックナンバーは、播磨病院ホームページ

<http://www.harima-hp.jp/main.htm> からご覧いただけます。】